

◆2019年 中学入試算数 講評【栄光学園】

[昨年](#)の講評にあるように、

毎年一貫した出題をしてきた栄光ですが、卒業生で毎年問題を見ている算数・栄光マニアの筆者からすると、今年の問題は、いつものそれとは違う印象を受けました。

大問1 オーソドックスな軌跡の問題

大問2 空間図形 展開図

地頭および、(3)の試行を経て(4)を類推させる問題なのですが、(4)のような、知識として知っている人がいるかもしれない問題は、過去の栄光で出なかった問題ですし、(1)から(4)までの流れが、例年の栄光らしくはないですね。いろいろと試されているのでしょうか。

大問3 規則性

見たことのないことを試行してみて、そこから発見を経て、応用させていく、栄光らしい題材です。試行をさせる題材のステップの刻み方や、発見の昇華のさせ方が、従来の栄光とは異なる印象を受けましたが、これも、採点の都合上であったり、いろいろと試されたりしているのではと想像します。(1)から(3)まで力技で解いて、(4)を空欄にした受験生がもしかしたら多かったかもしれません。

大問4 整数

非常に面白い題材です。「A君B君とも、ツルを折るのはカメを折るのより40秒かかる」「ツルを折るのも、カメを折るのもA君の方がB君より30秒早い」これらの事実がどう関係してくるのだろうか、ということが気になったり、いろいろパラメータをいじってみたりと、帰り道や、お家に帰ってから気になって取り組んだ子がいると思います。試験内の限られた時間では少し難しいかもしれませんが、栄光は「帰ってからも取り組みたくなるような」問題を、過去も出題してきました。